

＜建設業経理士1級（原価計算）ミニテスト5＞ABC

次の資料によって、伝統的原価計算（アバウトな計算をしているという意味）と、ABCシステムを適用した場合の（活動基準）原価計算を実施して、両者の工事総利益を計算しなさい。

<資料>

1. 工事間接費総額 910,000 千円
2. 工事間接費を発生させる活動別に原価を区分集計した場合、工事間接費は、次のように区分される。

機械利用費 560,000 千円

段取費 80,000

修繕維持費 120,000

運搬関係費 150,000

計 910,000 千円

3. 伝統的計算の工事間接費配賦基準 労務費基準
4. ABC計算のコストドライバーと配賦比率

	コストドライバー	X工事	Y工事
機械利用費	機械運転時間	400時間	300時間
段取費	回数	4回	4回
修繕維持費	修繕回数	10回	20回
運搬関係費	運搬回数×距離	80	120

5. X工事・Y工事の工事収益と工事直接費

	X工事	Y工事
工事収益	2000千円	1,500千円
工事直接費	970千円	720千円
内訳：材料費	490	380
労務費	360	240
外注費	120	100

<解答>

<伝統的計算>

	X 工事	Y 工事
工事収益		
工事原価計		
< 工事直接費		
< 工事間接費		
工事総利益		

<ABC 計算>

	X 工事	Y 工事
工事収益		
工事原価計		
< 工事直接費		
< 工事間接費		
工事総利益		

<建設業経理士1級（原価計算）ミニテスト5>ABC

次の資料によって、伝統的原価計算（アバウトな計算をしているという意味）と、ABCシステムを適用した場合の（活動基準）原価計算を実施して、両者の工事総利益を計算しなさい。

<資料>

1. 工事間接費総額 910,000 千円
2. 工事間接費を発生させる活動別に原価を区分集計した場合、工事間接費は、次のように区分される。

機械利用費 560,000 千円

段取費 80,000

修繕維持費 120,000

運搬関係費 150,000

計 910,000 千円

3. 伝統的計算の工事間接費配賦基準 労務費基準
4. ABC計算のコストドライバーと配賦比率

	コストドライバー	X工事	Y工事
機械利用費	機械運転時間	400時間	300時間
段取費	回数	4回	4回
修繕維持費	修繕回数	10回	20回
運搬関係費	運搬回数×距離	80	120

5. X工事・Y工事の工事収益と工事直接費

	X工事	Y工事
工事収益	2000千円	1,500千円
工事直接費	970千円	720千円
内訳：材料費	490	380
労務費	360	240
外注費	120	100

<解答>

<伝統的計算>

	X 工事	Y 工事
工事収益	2,000 千円	1,500 千円
工事原価計	1,516 千円	1,084 千円
<工事直接費	970 千円	720 千円
<工事間接費	546 千円	364 千円
工事総利益	484 千円	416 千円

<参考：工事間接費の配賦計算>

X 工事へ $910 \text{ 千円} \times 360/600 = 546 \text{ 千円}$

Y 工事へ $910 \text{ 千円} \times 240/600 = 364 \text{ 千円}$

<ABC 計算>

	X 工事	Y 工事
工事収益	2,000 千円	1,500 千円
工事原価計	1,430 千円	1,170 千円
<工事直接費	970 千円	720 千円
<工事間接費	460 千円	450 千円
工事総利益	570 千円	330 千円

<参考：工事間接費の配賦計算>

(総額)		X 工事	Y 工事
機械利用費	560,000	320,000	240,000
段取費	80,000	40,000	40,000
修繕維持費	120,000	40,000	80,000
運搬関係費	150,000	60,000	90,000
合計	910,000	460,000	450,000

※計算方法の例示（機械利用費）

X : $560,000 \text{ 円} \times 400/700$ Y : $560,000 \times 300/700$